

大学生に芥川龍之介『蜜柑』の読みを 指導する試み

裴 崢

- 目次： 1 『蜜柑』をなぜ読むのか？
 2 教材としての『蜜柑』
 3 表現課題方式の指導方法
 4 『蜜柑』授業実践の結果から
 4.1 授業の組み立て
 4.2 授業の展開と問題点
 4.3 各課題の評価と改訂の方向

1 『蜜柑』をなぜ読むのか？

中国では芥川龍之介の作品は「読解」の教材として、『羅生門』の外に、『鼻』、『杜子春』、『蜘蛛の糸』がよく採用されている。いずれも完成度の高い作品である。これは思想やテーマへの直結性が強い結果とも思われる。主人公の心理の推移を通して、たとえば『鼻』で指摘した自尊心、虚栄心、エゴイズムを、『杜子春』、『くもの糸』で求めた“利己心の脱却”の難しさ、凡人としての弱さを、学習者自身の中でどう見つめ、どう感じるか、いわば倫理的な読み方に導きやすい作品という観点ではないかと思う。

しかし、テーマ性を追うのではなく、芥川の織りなす文学そのものの魅力を味わうには、『鼻』、『杜子春』、『蜘蛛の糸』などの作品より、『蜜柑』を取り上げた方がよいと思う。

『蜜柑』は、芥川龍之介が1919年5月、『新潮』に発表し、翌年1月春陽堂刊『影燈籠』に載った。雑誌発表時は、「私の出遇った事」の総題で、「一、

蜜柑」「二、沼地」の二項からなっていた。後にそれぞれが独立作品として単行本に収録された。

『蜜柑』は作者自らの体験を踏まえて書いたものとして、「小説というよりも、エッセーと言ったほうがよいかもしれない」¹⁾という意見がある。現在、『蜜柑』を日本の高校の教材として、小説の読み方という単元に採用している出版社がある。関口安義は、次のように不満を述べている。『蜜柑』は、

いわば、作者の体験記、エッセイなんです。随筆としてやるのならいいんですが、小説の読み方教材として高校の一年生に位置づけるというのは、ちょっと無理があるんじゃないか、……。

『蜜柑』はラストシーンがすばらしい。ですから、これは小説の読み方とは別に、表現という観点での扱いにして、中学校で扱うのがふさわしい……²⁾。

『蜜柑』は高校の教材にするか、中学校の教材にするかを別として、『蜜柑』を小説として扱わないことには賛成できない。

『蜜柑』は確かに作者の体験にもとづくものだ。しかし、体験と感慨をそのまま叙述しただけではない。作者の綿密な構想によって、登場人物、事件などを入念、精巧に脚色、描写し、人間社会の一面を鮮明に表現した小説そのものと言うべきである。

堀辰雄は、『蜜柑』は「非常に微妙な、鮮やかな効果を持っている」「好個の短編である」³⁾と言っている。

川端俊英は、『蜜柑』は「聊かも表現に無駄のない」、あたかもチェホフの

1) 関口安義「代表作ガイド」、『芥川龍之介 群像 日本の作家』11 (小学館, 1991年) 328 ページ。

2) 座談会「芥川文学の教材化——テキストの無限の起爆力」, 出席者: 関口安義・安居總子, 関口安義の発言, 『生誕百年記念特集 芥川文学の教材化への挑戦』月刊国語教育 3 特大号 No. 126 (東京法令出版, 1992年), 29 ページ。

3) 堀辰雄『現代日本文学大系』43 (筑摩書房, 1968年), 420 ページ。

「真珠のやうな愛すべき作品」⁴⁾だと述べている。

また吉田精一は、『蜜柑』は「片々たる小編だが、粗野な小娘の野性の中にある純情が、いくつかの蜜柑に象徴されて、蕭索たる、又陰惨たる風景の中に乱落する風景は美しい。」⁵⁾と評している。

これらの評論は、『蜜柑』のジャンルについて論じたものではないが、『蜜柑』が、優れた表現と構成をもつ魅力的な作品であることを指摘している。

2 教材としての『蜜柑』

管見する限りでは、『蜜柑』に関する詳細な指導案、実践報告などは見当たらない。1992年芥川龍之介生誕百年に際して、日本で「芥川文学の教材化——テキストの無限の起爆力」というテーマで、座談会が開かれた。主催者は、座談会に先立ち、「扱いたい芥川作品」について、中高各8人、合わせて16人の教員からアンケートを取った。そのうち、3人が『蜜柑』を取り上げている。この3人は『蜜柑』の指導方法をそれぞれ次のように考えている。

(1) 象徴的な描写を読みとらせたい⁶⁾——小坂桐子

- ① 場面ごとに色彩がわかる部分を抜き出して、「私」の心情とのかかわりを検討する。
- ② 最後の場面の『蜜柑』の象徴しているものを検討し、主題を考える。

(2) 対比と象徴を中心に⁷⁾——平山富子

- ① 主人公「私」と娘を対比する。外面の対比では、具体的な描写を取上げ比較する。そして内面の対比に移る。外面では優位にある「私」であ

4) 川端俊英「作品辞典 蜜柑」, 菊地弘・久保田芳太郎・関口安義『芥川龍之介研究』(明治書院, 1992年8版), 283ページ。

5) 吉田精一『吉田精一著作集』1(桜楓社, 1979年), 134~135ページ。

6) 小坂桐子「私が扱いたい芥川作品」, 『生誕百年記念特集 芥川文学の教材化への挑戦』月刊国語教育3特大号 No.126(東京法令出版, 1992年), 38ページ。

7) 平山富子「私が扱いたい芥川作品」, 同上, 40ページ。

るが、内面では「疲労・倦怠感」・「差別意識」があり、娘の「優しさ・暖かさ」に勝ってはいない。

- ② 『蜜柑』の象徴性を考えさせる。投げたものは、駄菓子であってもお金であってもいけない。やはり『蜜柑』のもつだいたい色のあたたかさが必要である。それはこの娘の心の象徴である。

(3) 描写を丁寧にたどり、作者に身を寄せて読む⁸⁾——吉本真也

- ① 作者の「出遇った事」を追体験させることに主眼を置き、情景描写と心情描写とのかかわりをおさえる。
- ② 作品を二つの場面（「私の疲労と倦怠」、「娘への嫌悪感」を描写する場面と、「子どもたちの上に乱落する鮮やかな蜜柑の色」を描く場面）に分けて提示し、感動を新鮮なものにする。

3つの指導内容はみな『蜜柑』の表現に注目している。場面にもとづいて表現の意味を確かめていくという進み方も窺われる。しかし、対比と象徴の表現に注目するだけでは、また全作品を2つの場面に分けるだけでは、『蜜柑』の表現の美しさ、豊かさと作品の巧みな描写、厳密な構成を十分に理解することができるかどうかは疑問だ。主題を考えさせる扱い方にも賛成できない。

3 表現課題方式の指導方法

『蜜柑』の授業について、私は過去脚本形式の問答案を考えた。たとえば、「ぼんやり発車を待っている『私』について、どんなことを感ずるか」、「どうしてこのようにイメージ付けられてしまったのか。発車前の描写からそう受け取られたのだろうか」などのような問いを設定し、教師の説明を用意した。問答によって、作品に対する理解を深める趣旨はいいが、いかにも誘導的な設問になっている上、作品の重要な表現に注目して、意味と効果を考えてい

8) 吉本真也「私が扱いたい芥川作品」、同上、42ページ。

ような題材, ストーリーの商品(同一作家のもの, ほかの作家のもの)を較べて読む課題(作品に対する広い読みをねらうが, 主として構造課題として使う)。

この表現課題方式にもとづいて、『蜜柑』を素材として指導案を作成した。ここではこのような方式を用いて行なった『蜜柑』の授業実践の結果をまとめたい。

4 『蜜柑』授業実践の結果から

4.1 授業の組み立て

授業を進めていくとき, 指導案で設定した部分課題・場面課題・構造課題を, プリントにし, 場面ごとに課題を配る。この課題プリント形式を取る理由は, 次の3点である。

- ① 授業の客観化を目指す
- ② 課題の独立性から見て
- ③ 学習者が与えられた課題について考える十分な時間を保障する

具体的な組み立て方は以下の通りである。

- ① 場面ごとの音読
- ② 語句の説明
- ③ 課題プリントに記入する(第一の段階 部分課題4, 場面課題8, 第二の段階 構造課題1)
- ④ 書いたことをもとにした発表・討論
- ⑤ 教師のまとめ

4.2 授業の展開と問題点

本プランは, 日本の某大学1年生, 52人クラス(男子41名, 女子11名)で, 授業実践を試みた。1993年9月に2回, 全3時間を使って行った。対象は日本人学生なので, 授業のとき, 語句説明の過程を省くことにしたが, 場

面についての考え方、及び部分課題などの設け方について、説明した。

小樽商大の『人文研究』第87輯(1994年3月発行)に載せている『蜜柑』の指導案には、課題と予想される答え、ねらいを記載した。ここでは各課題についての学習者の反応、答えを示すが、理解を助けるために、課題とねらいの部分を順次にあらためて添付する。なお、プリントの回収率は1回目は80%、2回目は75%だった。

部分課題1 「ある曇った冬の日暮れである。」(p1, 1行)という表現を、
次のように書き換えたとします。

a 「ある曇った冬の日暮れ、」

或いは、

b 「ある曇った冬の日暮れであった。」

元の文はどんな効果を持っていると思いますか？

ねらい どうして、「である」という現在形で書き出されているのか、注意させる。

[学習者の答え]

「a」の場合には、「読み手の視点が次に移ってしまい」、「読みとばすおそれがある」。

「b」の場合には、「私」が「この場面に直面しているという感じが薄くなる」。

「原文」の場合には、「元の文は断定的ないい方をしている」、「読み手が物語に入りやすい表現であり、かつすべてに置いて(時刻、天候及び話しの方向など)強く印象づけることができる」、「過去形ではなく、時制を現在形にすることで読み手と登場人物との一体感が生まれる」、「他の文章と表現を変えることにより、場面の中にすんなり引き込む効果を持つ」、「他の文体は、回想しているものとなっているのに、『～である。』と現在形にすることで、『曇った日暮れ』ということを強調するとともに、今まさに暮れていく様子を表現する効果」を持つ。

発表は2,3人に止まったが、書かれたものを読むと、ねらいが達成されていることが分かる。

場面課題1 「これらはその時の私の心もちと、不思議なくらい似つかわしい景色だった。」(p1, 7行)とあります。
「これら」とはなにを指していますか？

ねらい 気持ちと景色が「似つかわしい」こととの確認。

〔学習者の答え〕

「曇り空、冬の日暮れのどんよりとした感じと、人気のないプラットフォームのがらんとしたさみしさ、その中の作者以外の存在であるオリに入れられた小犬の悲しげななき声、それらの作者をとりかこむ状況のこと」、「乗客の一人もいない客車、一人もいないプラットフォーム、その中で、檻に入れられた一匹の小犬の悲そうな鳴き声だけが、響き渡っていること」、「曇った冬・隅・ぼんやり・一人もいない・うす暗い・悲しそう」というような「暗い気落ちした表現」、「閑散としていても寂しい、曇った日暮れの主人公をとりまく情景」を指す。

取組みやすかったようである。作品中の描写語句の引用もあるが、自らの受け止め方を加えながら、自分の言葉による回答が多かった。「これら」の指す意味を的確にとらえていた。

場面課題2 「が、やがて発車の笛が鳴った。……後ろへ倒れて行った。」(p1, 14行-26行)とありますが、
a この場面の中でのものうい静かな動きを表す表現を見つけてみましょう
b またものうい静かな動きを壊すような表現を見つけてみましょう。

ねらい コントラストによる小娘の登場の強調に注目する。

〔学習者の答え〕

「難しい」と呟く声が出始め、プリントに書けたのはわずか十数人だった。指名して何人かに発表させた。b組の表現は比較的にすぐ取り出せたが、a組の表現については、戸惑ったようだ。「が、やがて～倒れていった」の全部は、動と静の場面なので、すべてがどちらかに属するという意見があった。「ずしりと揺れて」は予想通りに取り上げられ、それは動と静の中間で繋いでいる役割を担っているように思う人もいたが、発表者が余りにも少なかったので、議論に至らなかった。

書かれた答えによると、二組の表現を、aは→汽車の動く様子と情景の説明、bは→女の子についての説明、というようにまとめているのもあった。いいところに目を付けたと思い、後に課題改訂の際、参考にしたい。

1回目の授業は部分課題1、場面課題1、2しかできなかった。予定したように課題を1つずつ学習者に与え、書かせた。授業後、課題に取り組む度に前の部分を読み直さなければならず、思考的にも体力的にも大変疲れてしまう。区切りのいいところで、ある程度まとまって課題に取り組ませた方がいいという提案があった。次回の授業にその提案を採用し、プリントを2回に分けて渡した。90分授業の中で、残った10課題を終えなければいけないので、結果的によかった。

しかし作品は個々の場面によって成り立っているが、各場面はそれぞれ独立している面もある。場面ごとの課題を考える時、果たして一々前の場面を読み返す必要があるかどうか、疑問がある。少なくとも場面の定義について、学習者に十分理解させていなかったことに気がついた。

場面課題3 「それは油気のない髪をひつつめの銀杏返しに結って、横なでの痕のある皸だらけの両頬を気持の悪いほど赤くほてらせた、いかにも田舎者らしい娘だった。しかも垢じみた萌

黄色の毛糸の襟巻きがだらりと垂れ下がった膝の上には、大きな風呂敷包みがあった。そのまた包みをだいた霜焼けの手の中には、三等の赤切符が大事そうにしっかりと握られていた。」(p1, 30行-36行)

ここでは、「下品な顔だち」や「不潔な」服装や「愚鈍な心」などが描かれているが、それと異質な表現を取り出してください。

ねらい ほかのような感情評価的な態度と違う客観的な描写に注意し、小娘の貧しい状況がただ客観的に書かれているのではなく、「出来事」の伏線として読み取る。

〔学習者の答え〕

しきりに「難しい」と騒がれた。「银杏返しに結って」が5例、「萌黄色の毛糸の襟巻き……」が2例、「大きな風呂敷包み」が4例、まったく書いていないのが8例あった。「大事そうにしっかりと握られていた。」が14例あったが、教師のまとめを聞いてから書いたのもあったかもしれない。

場面課題4 「私は一切がくだらなくなつて、読みかけた夕刊をほうり出すと、まだ窓枠に頭をもたせながら、死んだように眼をつぶって、うつらうつらし始めた。」(p2, 20行-23行)とあります。

「一切」の中身とはなにを指すのですか？

ねらい 人生に対する「私」の絶望的な気持ちを理解する。

〔学習者の答え〕

「不可解な、下等な、退屈な人生」が18例、「隧道の中の汽車」、「田舎者の小娘」、「平凡な記事にうずまっている夕刊」が8例あった。ほかに「現在の退屈な生活」、「人生 or やることなすことすべてのこと」と答えたのもあった。

「隧道の中の汽車」や「田舎者の小娘」などは、「不可解な、下等な、退屈な人生」の象徴として取り上げられているのだ、と説明したら、頷いた人もいたが、納得しなかった人もいた。人生はやはり「不可解」な問題だから、はばのある答えの方がいいかもしれない。

部分課題2 「じっと汽車の進む方向を見やっている。」(p 3, 6行-7行)
とあります。
「見ている」と「見やっている」の違いを説明してください。

ねらい 窓から入ってきた煙を気にするというよりも、はるかに大事なことは窓の外に出現することに予期される。

〔学習者の答え〕

「見ている」だと、「ただ、物事を目にしている」、「漠然と目に入るものだけを見ている」、「無意識に光景が目に入る」、「ぼんやり眺めている印象を受ける」、「特に見たくなくても見てしまう」、また「比較的近いところを見ているように感じる」。

「見やっている」だと、「小娘と小娘の見ている方向の距離感が感じられ」、「目をこらして集中して」、「遠方の方、ずっと先の方を見ようとしている」、「懸命さがある」、「何か目的があって」、「遠くを、何かを求めるように必死で見ている様子が思い浮かぶ」。

「見ている」の受動的な状態と「見やっている」の能動的な行為との比較によって、表現の意味を正確に理解したと思う。

場面課題5 この場面では「私」の不快感がさまざまな表現で描かれています。

- a 小娘に対する不快な感情がもっとも高まったところを表現している表現はどれですか？
- b それらとは異質の感覚が描かれている部分を見つけてく

ださい。

ねらい 「私」の精神的な辛さだけではなく、肉体的にも耐えられなくなる
 極限の状況を理解する一方、場面の劇的な転換を意味する表現を
 味わう。

〔学習者の答え〕

「a」について、「だから私は腹の底に依然として険しい感情を蓄えながら、
 ……冷酷な眼で眺めていた」は7例、「この見知らない小娘を頭ごなしに叱り
 つけてでも、……」は8例あった。

「b」については、「あの霜焼けの手が硝子戸をもたげようとして悪戦苦闘
 する容子」は1例、「窓の外が……匂いが冷やかに流れ込んで来」たは4例あ
 った。他に場面3や場面7から見つけてきた答えもあった。やはり場面の概念
 はよく理解されていなかったことが分かった。また予想した「a」に入るは
 ずの答え、「ほとんど息もつけなほど咳きこまなければならなかった」はこ
 こにあった。ねらいにほとんど達せなかった。

場面課題6 「彼らは皆、この曇天に押しすくめられたかと思うほど、
 揃って背が低かった。そうしてまたこの町はずれの陰惨た
 る風物と同じような色の着物を着ていた。それが汽車の通
 るのを仰ぎ見ながら、いっせいに手をあげるが早いか、い
 たいけな喉を高くそらせて、なんとも意味のわからない喊
 声を一生懸命にほとばしらせた。」(p3, 22行-28行)とあ
 ります

この「それが」は次のどちらかを考え、その理由を述べて
 ください。

ア 三人の男の子が

イ ところが

ねらい 「それ」という言葉自体の表現性、及び男の子の「陰惨たる」外貌と彼らの持っている新鮮な生命力の対比に注意する。

〔学習者の答え〕

「ア」が12例、「イ」が8例、「アとイ」が2例、後はみな空白のままであった。

「ア」と答えた理由は、「“ところが”だと、前の文章と逆接的になってしまい、おかしい。背が低いことや、くすんだ色の着物を着ていたからといって、次に表現される行動をしてはいけないということにはならないし、アだときちんと筋つまが合うから」、「“ところが”だと意外なことの意味になってしまうが、前の文と後の文では別に逆のことをいっているわけでもないから」、「私」は「この三人の男の子にもあまり良い感情を持っているとはいえない表現をしている。あえて“それが”と物と呼ぶような言い方にした」。また「それが→それらが→かれらが」というように考えてもいる。つまりこのくだりの文法的な面（「仰ぎ見ながら」などの動詞の主語として）と「私」のそれまでの立場による解釈の仕方である。

「イ」と答える理由は、「今まで静的な表現だったが、汽車の通ることを境にして、動的な表現に変わっているから」、「小さく、陰惨な雰囲気だった子どもたちが汽車が通るといっせいに手をあげ、声をあげ、活発な感じに変化するから」、「曇天に……背が低かった」、「町はずれの……着ていた」などの表現に対して、「生き生きとした表現があるから」。いわばこのくだり全体のつながりによる解釈であった。

答えは分かれたが、それぞれ違う角度から表現の意味を一所懸命に理解しようとした。分かれたままの答えがよかったと思う。表現の膨らみを客観的に裏付けたともいえよう。

部分課題3 「するとその瞬間である。」(p3, 28行) という表現を、次のように書き換えたとします。

「するとその瞬間、」

元の文はどんな効果をよくもたらしていると思いますか？

ねらい やま場の読み取りに焦点を向ける。

〔学習者の答え〕

元の文について、「断定的で、現在形の『である』によって、時間的な、緊張感を出す効果をもたらしている」、「話の流れを止め、それに集中させ」、「次におこることを印象づけて」、「読者に次の瞬間、何が起こるのかを、より期待させる効果をもたらす」、「いかにも、何かが起こるのだと、強調できる。つまり、読者に、“お、どうしたのだろう。”と、息をつまらせる様な効果があると思う。又、真にその瞬間」……というように、想像や創造を働かせながら、表現の意味を正しく理解したことが分かる。

部分課題4 「小娘は、おそらくこれから奉公先へ赴こうとしている小娘は、」(p3 34行-35行)とありますが、「小娘」を二度繰り返して、強調しているのはなぜですか？

ねらい 小娘の立場に身を寄せてみるようになってきた「私」の変化を理解する。

〔学習者の答え〕

「この小娘に心を動かされたということ」、「主人公の小娘に対する感情が不快なものから好意的なものへと変わったことを表わそうとしているからだ」、「作者が、憎たらしいetcとしか、それまでは思えなかった目の前にいる小娘が、同一人物にも関わらず、実は、こんなに素晴らしい人物だったのだということや、自分の見る目が明らかに変わったということを表すため」、「小娘に対して、同情あるいは感動し、感情移入され、いく分主人公が興奮している為」、「小娘に対して、私の新しい感情が表れてくることを強調するため」、「小娘の突然の行為に驚き、そして小娘の行為の理由を悟って、動揺したから。小娘への気持ちが一転する」……というように、「小娘」に対する「私」の見

方の変化に注目してとらえられた。

一方、「小娘」の立場を思いやるとらえかたもあった。「まだ年端もいかないう幼なさの残る少女が、奉公に出るといいうつらさにたえているかわいそうな感じを受ける。そんな少女が、弟たちとの別れにみかんをなげるといいう精いっぱい別れの気持ちが伝わってくる」。作品の表現を自分なりに、自分の中で読み取ろうとする姿勢が明らかになっている。

場面課題7 「が、私の心の上には、切ないほどはつきりと、この光景が焼きつけられた。」(p 3, 41行-42行)とありますが、「切ないほど」がないとの違いを比較してみてください。

ねらい この光景が「私」の心との対比をなしているところに注目する。

[学習者の答え]

「切ないほど」がないと、「ただ記憶に残ったというふうなうけとめられ」、「漠然と“印象深かったんだな”としか読み手に伝わらない」。

「切ないほど」という表現を「加えることによって」、「不可解な下等な退屈な人生の中で、小娘の行った行動は作者に痛烈に感動を与えた」「ことを強調し」、「本当にものすごく心から印象に残ったんだなということが」「伝えられる」、「『切ないほど』があるおかげで、初めて小娘を見た時の感情と、蜜柑をばらまいた後の感情との相違の落差がよりはつきりとする」、「『切ないほど』があった方が主人公がこの光景を見てどれほど感動し、気持ちを高ぶらせたかがよく表われる」、「どの程度焼きつけられたかの度合いが違ってくる」、「心の奥深くにまでしっかりと刻み込まれた」ことが強調され、「次の『ある得体の知れない～湧き上がってきた』とスムーズにつながって、心の移りかわりをそのまま表現がとぎれてしまうことなくあらわすことができる」……というように、単語レベルでとらえるのではなく、文の中で「切ないほど」という言葉が入っていることによって、表現が力と深さを増していくことをとらえている。

さらに、「十三、四の小娘（まだ子供だ）が、貧しさのために奉公に行き、それを幼い弟たちが見送る。そして小娘は自分のための少ないみかんを弟たちに与える。鮮やかな光景の裏にかくれたドラマはとても悲しい。それが表現されているのではないか」というとらえかたもあった。

場面課題8 「私はこの時始めて、言いようのない疲労と倦怠とを、そうしてまた不可解な、下等な、退屈な人生をわずかに忘れることが出来たのである。(p4, 4行-6行)とありますが、下線部の「わずかに」は次のどちらの意味ですか？その理由を述べてください。

ア 時間・数量・程度・価値などの非常に少ないようす。

イ かるうじて。やっと。

ねらい 「私」の受けた感動の強さを示す一方、「私」にとっては、人生は相変わらず「不可解」で「下等」で「退屈」であるということの暗示を理解する。

〔学習者の答え〕

「ア」が10例、「イ」が10例、「アとイ」が12例、後はみな空白のままであった。

「ア」と答えた理由は、「作者は人生を不可解な、下等な、退屈なものだと決めつけているので、少しぐらい感動することがあっても、この人生の重みにおしつぶされてしまうから」。

「イ」と答えた理由は、「人生とは時間・数量・程度・価値では表わせないから」、「ずっと、おそらく汽車に乗る以前から疲労を感じていた。その長い時間からの脱出が、出来たことを述べたいと思うから」。

「アとイ」と答えた理由は、「アは『わずか』という言葉の意味であるから、アの辞書的意味、イは作者の絶望的で暗い性格から、この意味がある」、「今まで忘れることのできなかつたものがやっとのことでほんの少しだけ忘れる

ことができたことを示すと思うから」(下線は原文のまま)、「ア。蓄積していたものがたくさんあるため、イ。娘に対しての不快感がやっととけた」、「そのことに出会ったその時に忘れることができたという意味では、アであるし、そういう出来事があったはじめて、やっと忘れることができたともいえると思う」、「アでもイでもいいと思う。アなら、小娘のおかげで、ほんの、束の間だけ、忘れることができたというふうにもとれるし、イなら、他のものでは、自分の人生に対する考えを、変えさせるに至らなかったけれど、小娘のおかげで、やっと、忘れられたという意味にとれる」、「アであれば、特に時間的なことだと思う。主人公はひとときだけ不可解な下等な退屈な人生を忘れることができたが、しばらくたつと、またそれらについて憂うつな気持ちになるのかもしれない。イであれば、小娘の行動を見ての感動の方が、人生をなげく気持よりも少し勝っていたという意味にとれると思う」。

「どちらとも言える」という意見の理由は詳しく書かれていた。見落としそうなたった一つの単語について、学習者がこんなにたくさんの意味を豊かに考えたことから、ねらいは達成できたと判断している。

構造課題 「たちまち心を踊らすばかり暖かな日の色に染まっている蜜柑が凡そ五つ六つ、汽車を見送った子供たちの上へばらばらと空から降って来た。私は思わず息を呑んだ。」(p 3, 30行-33行) という表現について、

- a 「空から」がない場合との表現効果を比較してください。
- b さらに「降って来た」と「落ちていった」との表現はどう違いますか？

ねらい 蜜柑の色と空のどんよりとした色とのコントラストに注意し、蜜柑の鮮やかな登場、たちまちからりと裏返された「私」の心持ちとのダイナミックな変化の対照として読み取り、作品全体の意味を理解する。

〔学習者の答え〕

「a」について、「場面の情景への高さをもたせる」、「人間には未知のものである空に想像を抱かせる」、「暗い雰囲気の中に明るい雰囲気ができる」、「空の色と、蜜柑の色の組合せが強調され、美しい印象を与えられる」、「蜜柑が空からの恵みのような効果を与える」、「蜜柑の価値や大切さをかもしだしている」、「朗らかな、夢的な素敵な感じがする」……。

「b」について、「“落ちていった” はなげすただけの悪い印象がある」、「自然現象に基づく表現として、とても自然に読み手に受け入れられる」、「ただ落ちてきたのではなく、姉が心をこめて、蜜柑を降らせてくれた、という感じなのだ」、「一瞬のとまった絵としてうつったのだと思う」、「意外性を強調している」、「明るさと新鮮味がある」、「温かみや幸福感、明るさを持たせる」……というように、『蜜柑』の全体構造を支える表現の意味をきちんと読み取れている、と思う。

4.3 各課題の評価と改訂の方向

授業のぎりぎりまでかかって全課題をやっと書き終え、討論は十分展開できず、授業全体に対するコメントもできなかった。プリントの最後に、「このプランについて、気付いた点や感想などがあったら、述べてください」とつけた。一部分の人がそれを書いた。ここでは回収したプリントの答えをもとに、各課題を評価し、改訂の方向を示したい。

○ 想像的破壊の課題について

作品中の表現を抜き取ったもの、あるいは他の表現と入れ替えたものと原文との比較で、その表現の意味及び必然性を答える課題、たとえば部分課題1, 2, 3, 場面課題7, 構造課題については、ほぼそのままよい。

○ 「曖昧」を読み取る課題について

作品中の「曖昧」表現を取り出し、その表現に含められそうな1つ以上の意味を書き分けて、どちらの意味かを答える課題、たとえば場面課題6, 8については、答えは分かれてしまうが、表現の広がり、膨らみを理解させるに

は支障がないため、そのままよい。

○ 描写の種類の課題について

多くの描写から、同質の表現、あるいは異質の表現を取り出して、場面の意味を考える際、文面の内容を答えるにとどまり、その内容の表現しようとする意味を考えることがなかなかできない場合があった。たとえば場面課題5のように、判断する単位が明確にされていなかったため、難しいと騒がれたのもこの種の課題が多かったからである。それらの課題については、発問の範囲を縮め、また「その表現の意味は何ですか」というような問いを加え、あるいは句ごとに線と番号を付けて分類した方がよいと思う。

場面課題2, 3, 5の改訂は次のように考えられる。

場面課題2 この場面の中で、

発車に伴うものうい静かな動きを表す表現——a

そのものうい静かな動きを壊すような表現——b

とありますが、下の①から⑩までの文や節について、a、bのどちらにあてはまるか、分類してください。またaにもbにもあてはまらないものや、どちらにあてはめたらよいか迷ったものには、cをつけてください。

が、やがて発車の笛が鳴った。私はかすかな心のくつろぎを感じながら、後ろの窓枠へ頭をもたせて、①眼の前の停車場がずるずると後ずさりを始めるのを待つともなく待ちかまえていた。ところがそれよりも先に②けたたましい日和下駄の音が、改札口の方から聞え出したと思うと、間もなく③車掌の何か言い罵る声とともに、④私の乗っている二等室の戸ががらりと開いて、⑤十三四の小娘が一人、あわただしく中へ入って来た、と同時に⑥一つずしりと揺れて、⑦おもむろに汽車は動き出した。⑧一本ずつ眼をくぎって行くプラットフォームの柱、⑨置き忘れたような運水車、それから車内の誰かに祝儀の礼を言っている赤帽——そういうすべては、窓へ吹きつける煤煙の中に、⑩未練がましく後ろへ倒れて

行った。(p 1, 14行-26行)

答

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
a	○						○	○	○	○
b		○	○	○	○					
c						○				

発車に伴うものうい静かな動きともものうい静かな動きを壊す小娘の登場のコントラストに気付かせる課題だ。「一つずしりと揺れて」は汽車の動き出すことによるものにとれると同時に、「私」にとって、小娘の突然の登場はやがて「私」を取り巻く状況に大きな変化をもたらすことの暗示にもとれる。aにもbにも分類しきれず、cに入る。この表現の微妙な膨らみに注目することによって、この場面の意味を読み取ることができる。

場面課題3 小娘について、

「下品」で、「不潔」で、「愚鈍」で、「田舎者」だ——aと描かれています。本当にそれだけでしょうか、考えてみましょう。

下の①から⑥までの文の中の、小娘について書かれている文で、aにあてはまらないものはあつたら、bに入れてください。またその理由を述べてください。

それは①油気のない髪をひつつめの銀杏返しに結って、②横なでの痕のある鞆だらけの両頬を気持の悪いほど赤くほてらせた、いかにも田舎者らしい娘だった。しかも③垢じみた萌黄色の毛糸の襟巻きがだらりと垂れ下がった膝の上には、④大きな風呂敷包みがあった。そのまた包みをだいた⑤霜焼けの手の中には、⑤三等の赤切符が⑥大事そうにしっかり握られていた。(p 1, 30行-36行)

答

	①	②	③	④	⑤	⑥
a	○	○	○	○	○	
b						○

元の課題では、対応していない表現の意味がきちんと追求されていなかったもので、様々な答えを招いた。線と番号を付け、「a」にあてはまらない表現として、「b」の存在を問うことによって、迷いは解消され、取り出された表現の意味も考えなければならなくなる。

場面課題5 小娘が窓を開けようとする事から、小娘に対する「私」の不快な感情はどんどん高まっていますが、もっとも高まった部分の表現——a
 「私」のその不快な感情を和らげた表現——b
 を見つけて出してください。

元の課題では、発問は漠然すぎて、学習者は分からず混乱していた。ここでは発問を具体化することによって、大きな場面転換のキーワードを探させることができる。「私」の不快な感情がどう展開していくのかに注目させることができる。

学習者の感想文によれば、「1つの答えを出すのには無理があるから、いろんな解釈を念頭において読みすすめてほしい」、「細かなところまで気をつけて書いている表現まで、感じとれるような訓練となるような授業ができたら」と書いているように、1つだけの解釈に無理があり、細かな語句への配慮が足りないという意見があった。

学習者の意見に関して、次のコメントを付け加えたい。まず、書くことを強制する必要はないから、まとまった意見を書くことにとらわれるのではなく、あくまでも考えるために利用してほしい。また教師の意見を押しつける

必要もないから、それにもとらわれるのではなく、あくまでも討論を展開するために参考にすることを強調したい。それに日本人学習者であっても、最低限の語句説明は必要である。